

～ ゆかりのまちを訪ねて ～

五條市との相互物産展を開催しました（交流都市）

交流都市の奈良県五條市との間で、相互物産展を行いました。

五條市からは、9月24日開催の「第33回味覚の祭典 よいち大好きフェスティバル」に同市の農林政策課柿振興室の職員が出展し、収穫量日本一を誇る特産の柿の試食・販売を行いました。普段我々が目にする柿は他県産が多い中、試食した来場者からは「奈良の柿は美味しい」という声が数多く寄せられ、持ち込んだ50箱、1,600個の柿は正午には完売しました。市の担当者からは、五條市の柿の良いPRができた、来年度もぜひ参加したいと嬉しい感想もいただきました。

翌週の9月30日からは、本町職員はじめ余市振興公社、JAよいち、余市観光協会にも参加協力をいただき、五條市内のショッピングセンターにて2日間にわたり余市物産展を実施しました。

鮭トバなどの加工品や海産物は物産展が始まってすぐに完売し、来場者からは「もっと余市から持ってきて欲しかった」と嬉しい言葉もいただきました。また、りんごやブルーベリーなどの果物は試食販売を行い、りんごはもちろんのこと、普段五條市の皆さんが味わう機会の少ない生のブルーベリーは「甘くておいしい」と大変好評でした。当日は余市紅志高校の生徒の皆さんが手作りしたパウンドケーキやジャムなども完売し、五條市の皆さんに手厚いご協力をいただきながら、物産展は大盛況のうちに終わりました。



▲ 味覚の祭典
五條市出展の様子



▲ 五條市で実施したよいち
特産品フェアの様子

問合せ 企画政策課 ☎ 21-2117

11月5日は「津波防災の日」です

2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）による甚大な津波被害を踏まえ、同年6月に制定された「津波対策の推進に関する法律」において、広く津波対策についての理解と関心を深めることを目的として、毎年11月5日を「津波防災の日」と定めています。

今から163年前の1854年11月5日、安政南海地震が発生し、中部地方から九州地方の太平洋沿岸を津波が襲いました。紀伊国広村（現在の和歌山県有田郡広川町）では、高さ約5メートルの大津波が村を襲いました。

広村では、庄屋の濱口梧陵が、海水の引き方、井戸水の急退などから、大津波が来ることを予期して、田んぼの稲むらに火を放ち、暗闇の中で逃げ遅れていた村人を高台にある広八幡神社の境内に導き、多くの村人を救った「稲むらの火」という逸話が残っています。

津波防災の日は、大きな津波被害をもたらした日ではなく、防災知識の活用によって人々の命が救われた成功例に因んだ日として、安政南海地震の発生した日に定められました。

2015年3月に宮城県仙台市で開催された第3回国連防災世界会議において、日本は、「稲むらの火」の逸話や、11月5日が日本の「津波防災の日」であることに触れ、世界中の津波に関する防災意識の向上のため「世界津波の日」を制定することを提案しました。同年12月に行われた第70回国連総会で、11月5日を「世界津波の日」と定める決議が採択されました。

初めての「世界津波の日」となった2016年11月には、津波の脅威への意識向上のためのイベントが世界各地で行われました。

気象庁では、ホームページに地震・津波の仕組みや防災啓発のビデオ、パンフレットを掲載しています。この機会に地震や津波災害に対する備えについて考えてみませんか。

「地震・津波のビデオ、パンフレット」に関するサイトのURL

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/eq/index.html>



問合せ 札幌管区気象台気象防災部地震火山課 ☎ 011-611-6125

余市町の空間放射線量率の状況

空間放射線量率は「**平常レベル**」でした

測定日：9月22日～10月23日

最高値：45nGy/h

最低値：38nGy/h

平均値：39nGy/h

※直近の測定結果については、町ホームページでご覧いただけます。

私たちは日常的に自然界から微量の放射線を浴びています。平常時に測定される「空間放射線量率」は10～60ナノグレイ毎時（nGy/h）程度で、雨が降ると一時的に上昇する場合があります。

問合せ 地域協働推進課 ☎ 21-2142